

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	嬉野市立塩田小学校					
達成度（評価） A：十分達成できている B：おむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である						
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の活用について分かりやすい授業づくりへの活用ができている。今後は、学年の段階に合わせてオンライン等の授業を見据えた活用の進め方を探っていく。 地域や外部団体との連携を図り、体験活動や支援の必要な児童等に対応していく組織づくりを図る。 行事内容や校務分掌等の見直しを図り、業務改善や働き方改革を進めていく。 					
2 学校教育目標	元気に がんばる 塩田つ子の育成					
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域・家庭との教育力の連携（コミュニティとの活動及び家庭学習・家読の奨励） ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（校内研究：自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業づくり） 					
4 重点取組内容・成果指標						
中間評価						
(1)共通評価項目						
評価項目	取組内容	成果指標 (数量目標)	具体的な取組	中間評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	
<ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上 ●心の教育 ●健康・体つくり ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 	○児童が分かる、できると思う授業の充実及び家庭学習の推進	○「タブレット端末を活用した授業は分かりやすい」と回答した児童が85%以上を目指す。 ○日々の学習で「家庭学習(各学年の目標)ができた」と回答した児童が80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のノーデジタルデーの際に家読を推奨する。 ・家庭学習強化週間を設定する。(年2回) ・タブレット端末の研修会(プログラミング教育を含む)を年2回以上取り組む。 ・学年に応じた内容でタブレット端末を活用した授業やプログラミング教育を実践した授業(授業参観も含む)を年間5回以上実践する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した授業は分かりやすい」と回答した児童は93%であり、ほとんどの児童がタブレットの有効性を実感している。タブレット端末の研修会も行っているので、今後の授業にも生かしさらに分かりやすい授業を目指していく。 ・日々の学習で「家庭学習(各学年の目標)ができる」と回答した児童は79%で目標の80%には達することができた。また、毎月のノーデジタルデーの際の家読の実施率も8%となり、昨年度よりも伸びている。しかし、目標値の80%まではもう少しなので、今後も取組を継続していく。 	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が95%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校でのふれあい道徳の実践 ・道徳の授業について道徳により、学級通信等で年2回は知らせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10月にふれあい道徳を計画し、それに向けて準備を行っている。 ・学級担任に保護者への周知を掛け、学級通信などで保護者に知らせたり、学校メールで案内文を出したりしている。 	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「○将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答した児童生徒80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談週間を年1回以上実施する。 ・毎月心のアンケートを実施し、気になる点は児童に聞き取りを行ったり、児童に気を配ったりし、スズキ校務等に記録を残す。 ・SCIによる心の授業を年1回ずつ行う。 ・毎月1回、共通理解の時間を設定し、支援の必要な児童については、共通理解の場で確認する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケートを毎月実施し、ヒアリング結果の共有を行っている。 ・児童の様子の記入方法の共通理解を再度行う必要がある。 ・共通理解で名前が挙がった児童の様子を職員間で共有し、対応している。 	
	●あいさつ・返事の励行	●アンケートで「地域の方にもあいさつ・返事ができている」と答える児童・保護者が共に85%以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事の仕方を具体的に指導とともに、あいさつの意味について児童に理解させる。 ・児童会活動や委員会などによる挨拶の取組を実践する。 ・保護者に対し、PTA総会や学級懇談会、学級通信、まちコミメール等を通してあいさつ指導を行うような働き掛けをする。 ・登校班チェックを行い、チェック項目に「地域の方への挨拶」についての項目を入れ振り返させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会が毎月初めに挨拶運動を継続して行っている。 ・6年生が学級で話し合い、挨拶運動を始めた。挨拶の仕方についてのビデオも作成し、各学級でビデオを視聴した。 ・挨拶が上手だった児童については、放送や学級通信で紹介している。 ・登校班チェックを2学期初めに行う予定である。 	
	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答える児童・保護者が共に85%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん」をチェックする。 ・専門家と連携し、SNSやゲーム依存症に関する保健指導を講演会や学級指導などで継続して行う。 ・「早寝・早起き・朝ごはん(生活習慣)」に関する授業を年1回実践する(担任及び栄養教諭とのTT)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の生活がんばりカードは、夏休み明けに行つた。 ・SNSやゲーム依存症に関する講演会については、4月の授業参観時に全学年の児童が講師を開いた。 ・「早寝・早起き・朝ごはん(生活習慣)」に関する授業を年1回実践する(担任及び栄養教諭とのTT)。 	
	●志を高める体験活動の充実	○アンケートで、地域の良さを見つけることができたと答える児童及び、学校は体験活動の充実に努めていると答えた保護者を共に85%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で、外部(地域の老人会等)や地域ボランティアと連携した学習活動を2回以上行う。 ・事後指導では、(発表会、感想などの手紙での交流)だけでなく、地域の良さに気付くような手立てを意識して活動を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生は芋さし、2、3年生は玉ねぎ収穫、4年生は稚魚放流・塩田川講話、5年生はちくみ作り、6年生は塩田津講話、ミシンサポートー、そば作りに来てもらっている。 ・お札の手紙は学習活動後に書いて渡しており、地域の方々に支えられ活動することに気付くことができる。 	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月当たり45時間以内)を遵守する職員を80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期退勤推進日(毎週金・第3水)の完全実績(毎回掲示物の提示)。 ・反省等とともに分掌事務等の分担の見直し(年2回)。 ・デジタル化の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務(4月～5月)は令和5年度43:46時間に対して令和6年度は36:84時間と減っている。 ・反省等とともに業務内容の見直しを行っている。 ・児童・保護者・職員への諸調査等は、デジタル化が進み、集計等の事務時間が削減している。 	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○事務時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の事務時間確保のために連絡会をなくし、職員会議等を計画的に行う。 ・学年別及び年度末事務のための週間の設定(年2回)。 ・昼休みの児童への指導の時間をなくすために、委員会活動の進め方などを見直し。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の曜日に行っていた職員連絡会の回数を減らすことで、作業時間の確保ができるが、会議等の効率的な話し合いかいる。 ・学期末の成績整理のため、事務週間を設定した結果、5時間時間を確保できた。 ・昼休みに集会活動の指導を行わず、掃除時間等を活用して適宜指導する。 	
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数量目標)	具体的な取組	中間評価	
進捗度 (評価)					進捗状況と見通し	
<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の支援体制の充実 	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○アンケートで「児童の困り感や実態を把握し、きめ細やかな指導・支援を組織的に行うことができている」と答える職員が90%以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援をする児童の情報交換を、月1回行い、「ひまわり」に記録を蓄積する。 ・特別支援教育に関する研修会を年2回以上開く。 ・保護者に対して啓発活動を年1回行う。 ・特別支援についての啓発活動を各学年1回以上行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年児童に、実際に合わせて分かりやすい言葉で困り感と合理的な配慮についてプレゼンテーションを行つた。児童は一人ひとり支援が違うことを理解した。 ・児童についての情報共有を行つて、児童の心理面の状況とその配慮についても共同理解を行つている。 ・「学期末実例研究会」を行つて、課題より研究会の良い点と課題を共有するところをほめさせていただいた。巡回相談、ケース会議等を実施している。 ・保護者への啓発活動については、10月に紙面で、2月に来年度入学する児童の保護者に対して、対面で行う予定。 	
	●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育					
5 総合評価・次年度への展望						